施策評価管理シート

施策体系				2018(平成30)年6月作成	
	政　策	2	美しい自然に包まれ 快適に暮らせるまち		
	基本施策	4	魅力的な都市環境づくり	担当部局名	部局長名
	施　策	3	交通計画	都市整備部	谷本　浩司

1．施策の基本方針 Plan

○ 人と環境にやさしい持続可能な集約連携型都市の構築を目指し、自動車交通を円滑に処理する視点での道路整備だけではなく、公共交通による移動の利便性を確保するとともに、安全・安心な交通環境を創出し、鉄道、バス、自動車、自転車、徒歩など交通移動手段の適切な組合せによる交通体系の構築に向け、多様な主体の協働による交通まちづくりに取り組みます。

2．現状と課題 Plan

近年コミュニティバスの利用者数は減少傾向にあることから、路線を維持していくためには、利用促進を図りつつ、利用者ニーズに応じた路線の見直し等、継続した取組みが必要となります。
昨今、高齢運転者による交通事故が多発している状況から、運転に不安を抱える高齢運転者の免許証自主返納が増加することが見込まれており、代替移動手段として公共交通網の充実が求められていることから、交通不便地域の解消をはじめとして、路線バス、コミュニティバス、タクシー等が相互に連携した誰もが利用しやすい公共交通網の整備、充実を図っていく必要があります。

○施策指標（目標）及び達成状況 Plan Do

施策指標（目標）の内容　（単位）		現状値(H26)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	進捗率
公共交通など市内の交通環境に満足している市民の割合　（%）	目標	－	－	－	39.6	
	成果	37.6	36.1	36.4		0.0%
コミュニティバス「ナッキー号」の１日平均乗降客数　（人）	目標	－	－	－	182	
	成果	173	167	173		0.0%

3．課題解決への取組内容（平成２９年度） Plan Do

計　画	実績及び主な成果
・「名張市都市総合交通戦略」及び「名張市地域公共交通網形成計画」に基づき、関係者がそれぞれの取組を実施し、それを評価、改善していくことでより良い交通体系を創出します。 ・公共交通においては、地域住民やバス利用者のニーズを的確に把握することにより、交通事業者、地域コミュニティバス運行協議会、行政等が一体となって、路線バス、コミュニティバス等が相互に連携した誰もが利用しやすいネットワークの構築に向けた検討を行い、また、過度に自動車に依存する状態から、できるところから無理なく公共交通を利用する生活への転換を促すため、情報提供や利用促進の取組を実施します。	・市民、交通事業者、行政等から構成する名張市地域公共交通会議において、平成28年度に策定した「名張市都市総合交通戦略」及び「名張市地域公共交通網形成計画」に基づき、市民の誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの検討を進めるとともに、バスマップの作成や行先別時刻表の検討など、公共交通利用を促進するための分かりやすい情報提供の取組等を進めています。 ・平成29年7月にコミュニティバス運行協議会、運行事業者、行政等からなる「名張市地域公共交通連携協議会」を設立し、各路線相互の乗継時刻調整や乗継割引等の利用者目線に立った検討を行うとともに、乗込み調査を通じて利用状況や利用者満足度等を把握することにより、各路線の運行の評価を行い、見直し・改善へとつなげていく取組を実施しています。 ・過度な自動車利用から公共交通を利用する生活への転換を促すため、バスの乗り方教室の開催や各種イベントへのバス車両の展示等を通じて、バスを市民の身近なものとする取組を実施しました。

4．成果を踏まえた課題や現状 Check

高齢化や人口減少に伴い多くのコミュニティバス路線では利用者が減少しており、それに伴って運賃収入が減少するため、減便や運賃値上げをせざるを得ない等、安定した運行の継続に支障をきたし始めている路線もあります。
一方でバスを利用いただいている方にとっては重要な移動手段であり、また、高齢化等に伴い運転免許証を返納する方が大幅に増えている現状を鑑みると、鉄道をはじめとして路線バス、コミュニティバス、タクシーなど様々なモードが一体となった誰もが利用しやすい公共交通ネットワークを構築するとともに、利用者目線に立った分かりやすい情報の提供に取り組んでいく必要があります。

5．課題解決への取組内容（平成３０年度） Action

平成29年度にモデルとして作成した美旗地域コミュニティバス「はたっこ号」のバスマップの活用や主要バス停への行先別時刻表の設置など、新規利用者の獲得、また、利用者の利便性を高めるための取組を実施します。
また、バス乗込み調査等を通じて利用者の利用実態、バスに対する満足度、要望などを把握することにより、ナッキー号をはじめとして、各コミュニティバスの評価を行い、各路線の見直し、改善につなげていくとともに、乗継拠点における乗継時刻調整や乗継割引、総合掲示板による情報提供など、ネットワーク全体としての機能を高めるための検討を進めます。
「バスの乗り方教室」などの公共交通の利用促進を図るための取組について、昨年度に引き続き実施していきます。

６．行政評価委員会による総合評価 Check

コミュニティバス、地域住民の有償ボランティア組織による移動支援など、様々な施策の横断的な連携により、効率的で利便性の高い地域交通システムの構築に努めること。